

令和2（2020）年9月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和2（2020）年9月2日（水曜日）
午前11時～午後0時
柏崎市役所大会議室

1 発表事項

(1) 高柳みんなのバス！新車両お披露目会—みんなが選んだ車両デザインをいよいよ発表！

（主管：企画政策課）

柏崎交通株式会社が運行している高柳の地域内交通「新交通」のバスの更新に合わせて、高柳小学校の児童からバスのデザインイラストを描いてもらいました。そのイラストを基に車両デザインを2つ作成して、どちらが良いか児童や地域の方などから投票していただきました。新しいバスのお披露目は、来月早々にさせていただきたいと思っています。

(2) 海水浴場および番神自然水族館・かしわざきセントラルビーチの入込状況—昨年度に比べ海水浴場は32.4%、少人数向けのコンテンツは堅調

（主管：商業観光課）

新型コロナウイルス感染症の影響で、今年の海水浴場の入込状況が、全体で前年対比32.4%にとどまったことは仕方ないとも思いますが、このような状況の中で笠島は前年対比で約69%と健闘しました。こちらは地元の方から海の家を開いていただきました。また、子どもを連れて遊べる小さい海水浴場で、目が届きやすく、トイレやシャワーもあり、ライフセーバーも配置されていて安心して楽しむことができる環境が整っていたことが要因ではないかと考えています。西番神や西鯨波なども健闘したと思っています。反対に、柏崎を代表する鯨波海水浴場は、海の家が一軒も開設されなかったこともあり、前年対比11.9%で最もマイナスが大きかったです。

結果的に、お客さんの数が一番多かったのは東の輪でした。東の輪、番神、西番神は、ほぼ隣接していて、番神自然水族館が非常に健闘したことも影響していると考えています。番神自然水族館は前年対比98%で、ほぼ同じ水準を保っています。昨年までは東村山市から約100人の小学生にお越しにいただいていたのですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で来られませんでした。100人来られなくてこの数字なので、今回は多くの方々に楽しんでい

ただけたと思っています。また、リピーターが多くいらっしゃるというデータが出たのは非常に嬉しいです。ほとんど事業費をかけずに、お子さんたちから柏崎の海の良さを味わっていただき、リピーターになっていただいているというのは高い事業効果があると考えています。

かしわざきセントラルビーチは8月1日からオープンしましたが、想定以上に利用していただきました。評価も非常に高く、利用者からは、海のキャンプ地としてはトップ3に入るキャンプ地ではないかという声もいただいています。また、エリアの環境も非常に良く、ゴミ捨て場やトイレなども綺麗に整備されていて心地良かったという声もありました。今年は10月末まで営業していますので、落ち着いたシーズンでも利用していただければありがたいと思います。

(3) 柏崎フロンティアパークに日建リース工業株式会社が進出—プラスチックのマテリアルリサイクル

(主管：ものづくり振興課)

日建リース工業株式会社は、以前から柏崎フロンティアパークに関心を持っていただいていた。フロンティアパークの19番の区画5,693平方メートルあまりのところ、10月に着工して来年4月操業予定です。柏崎フロンティアパークには、東芝の柏崎工場、トライテック、不二産業、アール・ケー・イー、飯塚鉄工所、ユアテック、エンジンメンテナンスがあります。その他、まだ分譲中のところと現在商談中のところがありますが、商談も何も進んでいないところは一カ所だけになりました。商談中と言っても、簡単にすぐ決まるという状況にはないと思います。昨年まで、真ん中の4区画に一つの企業から入っていただく話がありましたが、それはなくなり、現在は他の企業と商談が進んでいます。

日建リース工業株式会社の柏崎フロンティアパークでの主な事業は、プラスチックのマテリアルリサイクルです。環境保全に携わる企業に進出していただいたのは非常にありがたいと思っています。

(4) 柏崎の新たな特産品へ—養殖ヒゲソリダイが順調に成長

(主管：農林水産課)

ヒゲソリダイの養殖が順調に進んでいます。マーケットから人気があり、昨年度分は他の魚種に比べても高い値段で買っていただきました。現在の状況や今後の意欲なども含めて、新潟漁協柏崎支部の柴野さんからヒゲソリダイの説明をしていただきたいと思います。

新潟漁業協同組合柏崎支部荒浜分会長（柏崎地域漁業担い手対策研究会長）柴野氏：新潟漁協柏崎支部では、昨年からヒゲソリダイの試験養殖を行っています。きっかけは、市内荒浜の公益財団法人海洋生物環境研究所が日本で初めてヒゲソリダイの完全養殖に成功したことです。昨年育てたヒゲソリダイ 521 尾を量販店に出荷し、大変好評のうちに完売しました。今年は、去年 8 月に産まれた稚魚を 2 千尾飼っています。成長が早く、あと半年で出荷サイズになります。この魚のおいしさを多くの人に知ってもらえるよう、冬まで大事に育てます。冬にスーパーなどで見かけたら、ぜひ購入してご賞味ください。

現在は試験的な養殖ですが、柏崎市から餌の一部を現物支給してもらっています。ヒゲソリダイの認知度向上を目的とした試食会を兼ねた講演会も実施すると聞いています。このように、市からも支援を受けているので、将来は柏崎を代表する水産物の一つになればと思っています。

ヒゲソリダイの養殖は、新潟漁協柏崎支部が独自に取り組んでいるものですが、柏崎支部では他にもさまざまな取り組みをしています。例えば、柏崎のみで行われている伝統的なおけ流し漁という漁法があります。その漁法でアラを一本釣りして、船上で神経締めという手法を施して「柏崎のアラ」という商品名でブランド化する計画に取り組んでいます。柏崎沖には、一切網を入れさせない、一本釣りしかできないアラの漁場があります。今年のアラのシーズンはもうすぐ終わりますが、大変おいしいです。神経締めすることによってさらにおいしくなったものが「柏崎のアラ」なので、機会があればぜひ食べていただきたいと思っています。他にも、水産物の資源を増やすため、バイ貝の産卵床を設置してバイ貝を増やす取り組みも行っています。

漁業を始めるには大変な面もありますが、今年度から、新潟県内では柏崎市だけ漁船の購入費を一部支援する制度などもできて、漁業者の環境も少しずつ変化しています。漁業者も高齢化で減少していますが、逆に好機と捉えて、漁業に興味のある方はぜひチャレンジしていただきたいと思っています。

市長：ヒゲソリダイはキロ単価いくらぐらいで売れますか。

柴野氏：最初はキロ 1,500 円で出しました。

市長：例えば普通の真鯛やヒラメはどれぐらいですか。

柴野氏：ヒラメは高いときで3千円ぐらいしますが、安くなると千円以下になります。

市長：今後、漁協としてもヒゲソリダイに力を入れたいとのことですので、柏崎市もお手伝いさせていただきたいと思っています。

(5) 柏崎市まちづくり市民アンケートの結果速報

(主管：企画政策課)

令和4年度から計画期間が始まる第五次総合計画の後期基本計画の策定に向けて、7月21日から8月5日にかけて行ったまちづくり市民アンケートの結果の速報値を報告します。

「柏崎市は暮らしやすいまちですか」という問いには、「暮らしやすい」が21.1%、「どちらかといえば暮らしやすい」が50.3%で、70%を超える方々から暮らしやすいまちと評価していただきました。平成26年に行った前回アンケートでは62%ほどでしたので、喜ばしいことだと思っています。

「現在の生活について」という問いに「満足している」または「どちらかといえば満足している」が前は61%ほどでしたが、今回は69%ほどでした。「これからも柏崎市で暮らし続けたいと思いますか」という問いに対しても、「これからも暮らし続けたい」と「どちらかといえば暮らし続けたい」がそれぞれ前回よりポイント数を上げています。

「柏崎市が誇れるまちの魅力は何ですか」の問いには、ぎおん柏崎まつり「海の大花火大会」と回答した方の割合が大きく増え、65.6%の方から魅力があると位置付けていただきました。前回は58%で一番高かったですが、今回さらにポイントを上げた理由は、テレビや新聞などで報道していただいたことが市民の皆さんに伝わり、市外の方々からも認知されたことを誇りに思うことで上昇したと理解しています。

「まちの活力を維持していくために必要なこと」の問いには、前回50%を超える方々から子育て支援の充実を挙げていただきました。これは、もっと子育て施策を頑張ってもらいたいという裏返しの数字だと思っています。今回44.1%まで落ちたということは、この間に少しずつですが、子育て施策が充実してきたという評価ではないかと思っています。さらに子育て施策を充実させていきたいと考えています。

「コロナ禍での行動や活動の変化または意識の変化」の問いには、「衛生を意識するようになった」と「外食が減った」割合が多かったです。飲食業の落ち込みも、このようなどこ

ろから裏付けられるだろうと思っています。「コロナ禍を踏まえ、今後、市が重視すべき点」の問いには「地域医療の体制や設備の充実」という回答の割合が最も高くなりました。

「エネルギー政策」に関する設問には、70%を超える方々から、限定的な原子力発電所の利活用と風力、太陽光、蓄電池、水素など再生可能エネルギーの産業化によるカーボンフリーのまちづくりに賛成していただいているという結果が出ました。

(6) ソフィアセンターと柏崎高等学校図書館が連携—高校生の利用促進とレファレンスサービス活用による課題解決力の向上を目指して

(主管：図書館)

今まで図書館業務は、図書館の中でだけで留まっていたが、今般、柏崎高校と連携することになりました。柏崎高校は、スーパーサイエンススクールの指定を受けている学校ですが、その中で取り組んでいる柏崎サイエンスプロジェクトの課題研究テーマを学ぶ際に、学校の図書館と市立の図書館で課題研究テーマを共有して、柏崎高校の生徒の課題研究をレファレンス業務などで支援します。

現在、高校生が本を借りたり、レファレンスサービスを利用したりすることは少ないです。高校生がソフィアセンターを利用する場合、ほとんどは自習のための利用にとどまっています。今後は、レファレンスサービスを利用する中で、図書館がどのような存在なのかということに気付いていただいて、本の貸し出しなども含めてさらに身近な存在として考えていただければありがたいと思っています。高校生のみならず、中学生、小学生を含めて、市民の皆さんにとって使いやすい、身近な図書館であってほしいと思っています。

2 質疑応答

◎柏崎の海に関する質問

記者：今年は、いろいろな要因が重なって海水浴場の入り込みは残念な結果に終わったと思う。市長は以前から夏だけの海ではないと言っていたが、今後どのような展開を考えているか。

市長：かしわざきセントラルビーチは10月末まで営業します。また、民間の方々もキャンプ場やバーベキュー場を開設しています。私たち公は情報発信局として、民間の方々をお手伝いして、相乗効果を期待しながら、夏以降も多くの情報発信をしていきたいと思っています。元気発信課のSNSや民間の方々のSNSで、柏崎の海の綺麗なところや、春先のアクティビティーなど、夏の海水浴の他にも楽しめることを紹介しています。今年の夏がこういう状況でしたので、今まで以上に海を使った楽しみ方を発信していきたいと考えています。

記者：海水浴場の入り込みが前年比32%で、市長は仕方ないと話されたが、もう少し具体的な受け止めに伺いたい。

市長：結果的に前年対比マイナス67%ほどでした。新型コロナウイルス感染症の経済対策として行った小規模事業者経営支援補助金の申請状況把握の際に算出した数字は全業種平均でマイナス62%でした。これを単純に比べていいかわかりませんが、おおむね6割から7割マイナスになっていることを考えると、ある意味正直な数字が出ているのではないかと思います。

記者：海の楽しみ方を模索、発信していきたいという話だが、今年の結果を踏まえて、来年度以降の海水浴場の在り方のヒントになるようなものはあったか。

市長：例えば、笠島はマイナスでしたが、踏みとどまりました。番神、西番神、東の輪も踏みとどまっているということは何か工夫などがあったのだと思います。昨年頑張った米山こども海水浴場は、今年は海の家を開設できなかったこともあり、マイナスが大きくなっていますが、やはり何かすることの効果は必ずあると思っています。笠島は小さな海水浴場です

が、海の家が開設され、ライフセーバーなどが配置されて安心できることを評価していただいて、お客さんが集まったのだと思います。やはりそれぞれ特徴を出していかなければならないだろうと思っています。

今回マイナスが大きかった石地海水浴場の売りは遠浅ですが、遠浅と言ってもどのぐらい遠浅かわからないということで、職員にどこまで立ってられるかを測らせて、写真を撮らせました。お子さんを連れてここまで歩ける、これぐらい遠浅だということをわかりやすく伝えられるように指示を出しました。石地はお子さんを中心としたファミリー海水浴場ですので、例えば小さな滑り台を設置して、米山こども海水浴場のような設えを考えられないか検討を始めるよう指示を出しました。

まとめて申し上げますと、何かしらの工夫、アイデアをそれぞれ地元の方々が考え出していくことが大事だと思っています。SUP やシーカヤックなど、先導的に尽力されている方もいらっしゃいますので、そういった方々とも連携させていただきたいと思っています。

記者：石地海水浴場の遠浅を職員に測らせたということだが、どのぐらいの距離だったのか。

市長：水深 50 センチで波打ち際から 35 メートル、水深 70 センチで 50 メートルでした。もっと深いところまで行っても立てると思います。

◎柏崎市まちづくり市民アンケートに関する質問

記者：「柏崎は暮らしやすいまち」や「現在の生活に満足している」というポイントが上がって喜ばしいということだが、ポイントが上がった要因は何だと思うか。

市長：例えば「まちの魅力は何ですか」という問いでは、海の大花火大会が 7 ポイントほど上がりました。これはテレビ放送などによって多くの国民から自慢の花火を見ていただき、誇りに思うことで上昇したと思っています。どこまで分析できるか分かりませんが、これが「柏崎は暮らしやすいまち」や「現在の生活に満足している」という結果に影響した部分もあるのではないかと考えています。詳しい集計は別紙にありますが、前回と比べて 5 ポイント以上上向きのもの、5 ポイント以上下向きものを全てチェックしました。詳しい分析は、これから始めます。

◎柏崎フロンティアパークに関する質問

記者：昨年まで商談していた企業との話がなくなったという話をされたが、新型コロナウイルスの影響なのか。

市長：新型コロナウイルスとは関係ありません。

記者：全体の分譲区画は当初 31 と聞いていたが、それに変わりはないか。

市長：31 で変わりありません。

◎自民党総裁選に関する質問

記者：自民党総裁選に今 3 人の名前が出ているが、誰が新しい総裁にふさわしいと思うか。期待する政策なども併せて伺いたい。

市長：菅さんが本命と報じられていると思います。私どもは拉致問題の件で何度か直接話をさせていただいたり、要望活動をさせていただいたりしています。叩き上げという言葉もよく使われますが、地方の出身で苦勞して政治家になり、官房長官で今の日本の政治を支えているという意味では、安定感は大いだと思います。個人的には、石破さんは鉄道が好きというところにシンパシーを感じますし、今は目立っていませんが、農業政策にもかなり詳しい見識を持っていると拝察していますので、柏崎を含めて農業県である新潟県は、農業施策という意味に関しては期待するところです。岸田さんは外務大臣の経験もありますので、アメリカや中国との外交に経験が生かされるのではないのかと思っています

◎次回市長選に関する質問

記者：間もなく任期が終わり、次の市長選の告示まで 2 カ月半ほどになったが、市長選に対する対応を改めて伺いたい。

市長：9月議会の一般質問でもそのような質問をいただくことになっていますが、そこで出馬の有無を申し上げることはないと思います。市議会9月定例会議での議会の方々からの意見、後援会の方々の私に対する考えも聞かせただいて、9月下旬には自分の考えを皆さんにお伝えする機会を作りたいと考えています。本当は8月上旬にと考えていましたが、柏崎においても新型コロナウイルス感染症患者が確認されたので、それを控えさせていただきました。今後また新たな感染症患者が出た場合、私の個人的な政治活動がどこまで許されるか、控えるべきか見極めながら進めたいと考えています。

◎柏崎刈羽原子力発電所の冷却ポンプトラブルに関する質問

記者：8月13日に柏崎刈羽原発で冷却ポンプが30分ほど止まったということがあったが、市長はいつ、どのようなかたちで東京電力から報告を受けたのか。また、このことについて市長の受け止めに伺いたい。

市長：私どもにはすぐに電話とファクスで報告がありました。大事に至らなかったのがよかったですが、冷却系は非常に重要な部門だと思っています。幸い短い間で済んで安心しましたが、いかなることがあっても万全の態勢で臨めるよう、バックアップも含めて、あらためて東京電力にお願いしているところです。

記者：今回のことはそこまで大きな問題だと捉えていないという認識でよいか。

市長：それほど大きな問題とは捉えていません。しっかりバックアップできたと承知しています。